

6 文や文章の中で使うようにさせる指導について (2年)

【板書事項】

くらべてみよう

- ・ いぬははなをくちにくわえた。
- ・ 犬は花を口にくわえた。
- ・ とおくのやまで、とりがなく。
- ・ 遠くので、鳥が鳴く。

日記から

きょうは、はるらしいあたたかい
 春
 一日 休み
 いちにちでした。やすみだったので
 お姉ちゃん
 わたしは、おねえちゃんといっしょ
 海 近く 歩き
 にうみのちかくをあるきました。す
 小さい貝
 ると、キラキラひかるちいさいかい
 見
 がらをみつつけて、とてもうれしくな
 りました。

【指導の流れ】

- 1 「この文を見て、何か気付いたことは
ありませんか。」
- 2 「全部、平仮名で書いてある。」
- 3 「習った漢字を使って直してみましょ
う。」
- 4 「比べてみて、どちらが読みやすいです
か。」
- 5 「漢字にした方が、読みやすい。」
- 6 「ここに、平仮名だけで書かれた日記
があります。習った漢字を使って直
しましょう。」
- 7 (全体で確認)
- 8 「日記や作文、ノートなどに書くとき
も、習った漢字を使うようにしましょう。」

【留意点】

- 1・2 導入として、平仮名だけの表記で
は読みにくい短文をあえて提示し、学習
した漢字を用いると意味がとらえやす
くなることに気付かせる。
- 3 より身近な感じがして取り組みやす
くなるよう、できるだけ児童が書いた作文
や日記などを用いるようにする。
- 4 平仮名だけの文を漢字に直させるだけ
でなく、漢字を正しく用いて書いている
例を紹介すると、さらに実践意欲の向上
につながる。